

大戦景気

明治時代末期から慢性的な不況と財政危機に悩まされていた日本経済は、第一次世界大戦をきっかけに空前の好景気を迎えた。日本は参戦したものの、アメリカとともに大戦の直接的な被害はほとんど受けず、ヨーロッパ列強が大戦で手一杯なのに乘じてアジア市場を独占し、さらに全世界に日本商品を売り込んだ。

○大戦景気の恩恵と陰

●空前の好景気とその浅さ

第一次世界大戦中の 1915~18 年、日本は次の市場を独占して、貿易を輸出超過に転じさせ、他国に 27 億円以上も貸す「債権国」となった。

- ①軍需品の輸出先：イギリス・フランス・ロシアなど
- ②綿織物の輸出先：ヨーロッパの勢力が後退したアジア
- ③⁽¹⁾ _____ の輸出先：大戦で好景気のアメリカ

⇒この好景気を⁽²⁾ _____ と呼び、巨利を一挙に得た者⁽³⁾ _____ が出る一方、景気による物価高騰に悩む民衆も存在した。

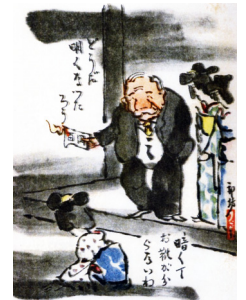


図 1 成金の風刺

●軽工業の盛況と重化学工業の発展

繊維業は盛況で、中国に建設された日本の紡績工場⁽⁴⁾ _____ が拡大した。

⇒また、ドイツからの薬品・肥料の輸入が途絶え、日本で化学工業が勃興した。

⇒これに重工業を合わせた重化学工業が、工業生産額の 3 割に及んだ。

◇重工業…造船業・鉄鋼業など

工業 56.8%		水産業 3.8%
軽工業 37.4	18.3	農業 35.1
重化学工業	その他 1.1	鉱業 4.3

図 2 1919 年の工業生産額

●農業と工業の労働者

工業の発展で、工業生産額が農業生産額を上回るようになった (図 2 参照)。



工場労働者数は、大戦前の 1.5 倍の 150 万人以上となった。

⇒また、工場で働く男性労働者数が、ようやく女性労働者数に近づいた。

⇒しかし、工業が本業の人は、農業が本業の人の半数以下であった。

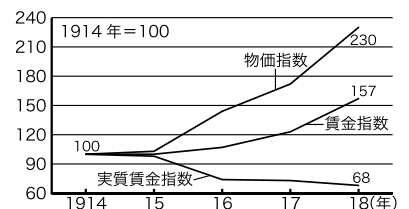


図 3 民衆の窮乏

●業種別の発展

<海運業・造船業>

世界的な船舶不足に助けられ、日本の海運業・造船業は盛況となった。

⇒海運業界では、巨利を一挙に得た者⁽⁵⁾ _____ が続々と現れ、

日本は、イギリス・アメリカに次ぐ世界第 3 位の海運国となった。

	1913 年	1918 年
造船工場数	6	57
造船台数	17	157
建造汽船総トン数	51,1525	626,695

図 4 造船業の発展

<鉄鋼業>

北九州の八幡製鉄所の拡張、満鉄の⁽⁶⁾ _____ の設立があった。

<電力業>

⁽⁷⁾ _____ 発電の発達で、⁽⁸⁾ _____ ・東京間の長距離送電が実現した。

⇒結果、農村部への電灯普及、工業原動力の蒸気力から電力への転換、

そして、電気機械の国産化が進んだ。

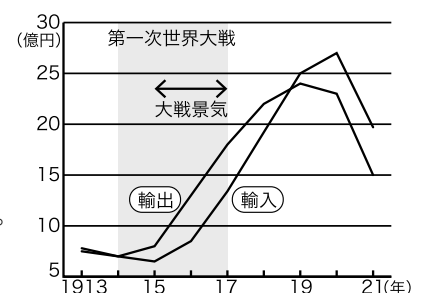


図 5 貿易額の推移